

平成15年度 公共事業再評価調書(出川 広域基幹河川改修 事業)  
 (事業着手後10年経過、着手後5年間未改修、再評価後5年経過、社会情勢の急激な変化)

評価確定日	平成15年 月 日
所管部課名	建設交通部 河川課

地区名	事業の概要	1 必要性の観点			2 事業進捗の見込みの観点				
		事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	事業の投資効果	[事業進捗の見込み]				
[河川名] 一級河川 いでかわ 出川 (箇所名) 横手川合流点～ 国道13号橋梁 [所在地] 大曲市 仙北郡仙南村	[事業の目的] 出川は、土砂堆積によって年々河床が上昇し、毎年出水期氾濫する河川であったため、河川の流量を速やかに流下させ下流部の氾濫を防止すると同時に、河床の安定を図ることを目的とするものである。 [総合計画上の位置づけ] ・あきた21総合計画の中で快適で安全な生活を実現するため災害に強い県土づくりの一環として、河川改修等の推進が位置づけられている。 [事業の内容] ○延長 8,360m ○築堤 17,180m ○護岸 29,000m <sup>2</sup> ○掘削 89万m <sup>2</sup> ○事業期間 S41～H24 ○計画高水流量 300m <sup>3</sup> /s	[事業の経緯] S41年 事業採択年 S43年 用地着手年 S46年 工事着手年 H24年 完成予定年 [進捗状況] ○全体事業費 56.0億円 (内地費 3.7億円) ○投資事業費 49.2億円 (内地費 3.5億円) ○進捗率 87.8% (内地費 94.6%) [長期継続の理由] 用地取得等に期間を要することや予算の制約上により長期化している。	[社会経済情勢の変化] ○災害発生時の影響 (想定氾濫区域内) 浸水戸数 148戸 農地浸水面積 355.1ha ○過去の災害実績 最大浸水戸数 86戸 (S41.6) 最大農地浸水面積 1,160.0ha (S40.7) ○災害発生の危険度 改修目標流量に対する現況流下能力の割合 約35% [地域の状況] ○地域の状況 ①地域開発の状況: 国道13号のバイパス化 ②地域の協力体制: 地元自治体は協力的である。 ③関連事業との整合性の変化: - ④地域の事業に対する社会的評価: - ⑤地元からは、浸水被害を防止するため、出川改修の早期完成を求められている。 [環境対策] ・平成14年度に、事業区間を対象に動植物調査を実施し、環境の現状を明らかにしている。 ・多自然型川づくり構想で、現況河道を極力保全し、生態系に配慮している。	[整備効果] 完成区間について浸水被害が軽減されており、治水効果が発現しているが、未改修区間は氾濫被害が発生している。 [費用の変化] 特になし [効果の変化] 物価上昇や圃場整備により資産価値が増加している。 [費用対効果] <table border="1"> <tr> <td>再評価時</td> <td>5.47</td> </tr> <tr> <td>採択基準</td> <td>1.00</td> </tr> </table>	再評価時	5.47	採択基準	1.00	[事業進捗の見込み] 事業を進める上で支障はなく、掘削、護岸整備は予定通り完成する見込みである。 3 コスト縮減や代替案立案等の可能性の観点 [コスト削減の可能性] 護岸工種の検討によりコスト縮減を図る。 [代替案立案の可能性] 代替案立案の必要性はない。
再評価時	5.47								
採択基準	1.00								
再評価の結果		対応方針(案)及びその理由			公共事業評価専門委員会の意見				
継続・中止		[対応方針(案)] 計画どおり、平成24年度の完成を図る。 [理由] 未改修区間が著しく蛇行しており、河積が狭小であることから洪水が発生しやすい状況にある。また、地域住民の被害防止に対する意識も高いことから、早期に改修を実施する必要がある。費用対効果も1.0を越えており、経済的にも妥当と判断される。							